

イエスは、マルタとマリアの家に迎え入れられました。招いたのはマルタですから、イエスの必要を満たすべく、いそいそと「もてなしのために、せわしく立ち働いていた」に違いありません。しかし、そんな自分をよそに、イエスの話に聞き入っているマリアの姿が目に入ります。マルタは、「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」とイエスに訴えました。マルタは、マリアに直接注意するのではなく、なぜかイエスの方に訴えています。ここにマルタの真意が見て取れます。イエスの視線がマリアにだけ注がれて、懸命に働く自分には向けられていないことが何よりも不満だったのでしょう。これに対してイエスは、「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない」と答えました。何と非情な言葉でしょうか。しかしよく考えてみると、イエスはマルタが「多くのことに思い悩み、心を乱している」ことを見ておられた訳です。マルタの状態を誰よりも心配し、気に懸けておられたのは、他ならぬイエスご自身だったことに気付かされます。

マルタの懸命なもてなし自体が責められている訳ではありません。むしろ、必要なことです。「しかし、必要なことはただ一つだけである」とイエスは語ります。それは誰にとって必要なことでしょうか。マルタの関心は、「イエスにとって」必要なことに向けられていました。しかし、ここで言われているのは、「マルタにとって」必要なことです。それは、マリアからも、マルタからも取り上げられてはならないただ一つのことです。

イエスは「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい」（20節）と語っています。これについて、榎本保郎牧師は言われます。「イエスを信じる者にとって、いちばん喜ぶべきことは、私の名が天に記されているということである。私たちは、自分や相手を安く見積もってはいけない。神は等しくその名を天に記して下さっているのであって、このことに大きな自信と喜びを持っていくところに、私たちの信仰生活がある」。

イエスはマルタに、私たちにこう言われているのではないのでしょうか。「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つである。わたしは、あなたを愛している。あなたの働きは、ちゃんと天に書き記されている。それは、決してあなたから取り上げられることはない」。このイエスの約束に支えられながら、働きを担う者でありたいと願います。

（文責：望月達朗牧師）

